



将来的には、既に建築が開始されている国家動物実験センター・南科センターと、拡大建築中の中央研究院南部バイオテクノロジー計画センター、さらには建設企画中の高雄バイオテクノロジー園区を中心とした連携。産官学、育成センター、新進企業、国内外のバイオテクノロジー新進企業等の誘致活動。さらには、高雄バイオテクノロジー園区での研究開発と試作量産施設活用による技術開発、台南園区バイオテクノロジーバレーや高雄園区バイオテクノロジー医療器材産業特区での本格生産、屏東農業バイオテクノロジー園区等との協力等を通じて、多くのメーカーがバイオテクノロジー産業発展に一役立てるよう、効果的な相互協力体制を作り上げることで完成された南台湾バイオテクノロジー・チェーンバレーの形成を目指す

著しい海外企業入居率の成長

海外メーカー進駐空前な盛況ぶり

申請許可された海外メーカーは、2005年までで累計19社。内訳は日系企業13社、米系企業5社、英系企業1社である。日系企業13社中オプトエレクトロニクス関連は7社、集積回路関連は2社、精密機械関連は4社である。更に南科に対し投資を希望している日系企業もいる。2005年のメーカー誘致は目覚ましい成果を挙げており、智索(Intelligent Research (Chisso))、大福(Daifuku)、優貝克(ULVAC)等業界大手の進駐が決定。南科の外国企業誘致は著しい成果を挙げている。



台湾大福会社(Taiwan Daifuku)起工式式典(8月4日)

海外メーカーに対する全面的なサービス体制

海外メーカー投資社数の増加に伴い、園区内での外国籍人員も急速に増加している。日本交流協会と米国在台協会はそれぞれ自国民の便宜を図るために、本管理局の協力の下、南科で出張サービス所を開設し、パスポートの更新や各種証明書の申請業務等を開始している。今後も定期的に園区内の外国籍人員のためのサービス提供を行う予定である。

日系企業に対し積極的なサービス提供を推進するため、2005年は「海外企業チーム」、「日系従業員交流会」や「日系企業従業員御夫人読書会」を引き続き行った他、日系企業従業員間の交流や台湾生活経験の交換を促進させるために、日系企業に対するイベント活動の強化や、日本国籍人員の台湾に対する理解促進など、日本人の生活便宜の向上のための援助を行っている。



台湾智索会社(Intelligent Research (Chisso))起工式式典(12月5日)



日本交流協会高雄事務所が園区内において領事館サービスの提供を行う(5月26日)



日本国籍日従業員交流会秋の音楽交流会(11月11日)



日系企業春季イベント・台湾糰を作る(3月26日)